

〈解答〉

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ウ	イ	ウ	ウ	イ	ウ	イ	ウ	イ	ウ
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
イ	ウ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
オ	エ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ

配点 各1点 40点満点

〈解説〉

① 並立の関係にある文節はそれぞれ交換が可能である。「洪水や／暴風に」(4)「静かで／広い」(8)。補助の関係にある文節は助詞の「は」が補えることが多い。「沈んで(は)／いった」(3)「おもしろく(は)／なかった」(5)。7「妹が／拾った」と言い換えられるので、主語・述語の関係と分かる。

② 連文節の文の成分も、述部→主部→独立部→接続部→修飾部の順に押さえていくとよい。

文法(1)

I 言葉の単位

① 文章 文が集まって、大きな主題を表したものの。

1 散文 ① 説明的文章(論説文・説明文) ② 文学的文章(随筆・小説)

2 韻文 詩・短歌・俳句

② 段落 長い文章の中の、内容によるひとまとまり。

1 形式段落 作者が書きながらまとめた段落。書き出しは一字下げる。

2 意味段落 読者が読みながらまとめていく段落。

③ 文 ひとまとまりの考えや事柄を表した、ひと続きの言葉。

④ 文節 文を意味のこわれない程度に小さく区切ったもの。

① 主語・述語の関係

ア 何が どうする。
イ 何が どん^なだ。
ウ 何が 何^だ。
エ 何が ある^(ない)。

② 修飾・被修飾の関係

例 美しい 鳥^が 鳴く。(連体修飾) 鳥^が 美しく 鳴く。(連用修飾)

③ 並立の関係 例 兄と 姉は 外出した。

④ 補助の関係 例 父は 外出して いる。

⑤ 接続語 例 寒かったので、コートを 着た。

⑥ 独立語 例 ああ、みごとな 景色だ。

2 連文節 二つ以上の文節がまとまって一つの文の成分としてはたらくもの。

※「並立」と「補助」の関係にある文節は必ず連文節となる。

3 文の成分 連文節の場合は、部と呼ぶ。

① 主語(部) ② 述語(部) ③ 修飾語(部)

④ 接続語(部) ⑤ 独立語(部)

⑤ 単語 言葉の最小単位。

1 自立語 2 付属語